

市民の手で文化のみえるまちづくり

姫路文連 ニュース

季刊 2012年 秋号

編集・発行
姫路地方文化団体連合協議会
(姫路文連)事務局

〒670-0935
姫路市北条口3丁目5
みどりビル1F (姫路労音内)

姫路地方文化団体連合協議会会報(第38号)



「絵具箱」 香月泰男(1911から1974)

香月泰男は自らの戦争体験をテーマに57点のシベリアシリーズを制作しました。

応召から復員まで肌身はなさず携帯した絵具箱の蓋裏には「葬・月・憩・葉・飛・風・雨・伐・道・鋸・陽・朝」の12の文字が書き込まれています。抑留中、想いがまとまったモチーフを文字に記して忘れないように。

今年生誕100年になります。

(ひめじ文連は9月、香月美術館へ施設見学旅行しました。)

茶座「いま・はりま」第7弾 ここに根づく文化 ーつながりからの発信ー

定型は力



今年で7年目をむかえる姫路文連5回連続講座・茶座「いま・はりま」は、6月5日に第1回を開催した。今シリーズは文連とのつながりの深い方々に自由に発表していただくことになり、トップバッターを歌人の楠田立身さんをお願いした。テーマは「定型は力」。楠田さんの少年時代における短歌との出会い、その魅力への目覚めについての逸話を枕に、短歌や俳句といった短い型式に凝縮される言葉の表現でいかに広大かつ深遠な世界がかたちづくられるかについて、さまざま作例をあげつつお話しいただいた。長々と散文を書く筆者にとっては、たいへん興味深い講演であった。

語りつく戦争体験



茶座第2回は、7月3日に神頭敬之介さんにお越しいただき、「語りつく戦争体験」をテーマに、大戦末期のフィリピン・ルソン島における過酷な戦いについてお話しいただいた。前線へむかう際に輸送船団が攻撃をうけ、乗っていた船が撃沈されて多くの仲間を失いつつも、自身は奇跡的に命拾いして再度戦場へおもむいたこと。海面を艦艇が埋め尽くすほどに圧倒的な戦力をもつ米軍の上陸攻撃後、絶望的な後退をつづけて終戦をむかえたこと。神頭さんは戦没者の慰霊にたびたび現地をおとずれているが、もう当時を知る人はほとんどいなくなってしまったこと。内地における空襲のことは体験者から聞く

機会が今までにもあったが、最前線の話はなかなかナマで聞けなかったので、貴重な証言をうかがえたのは幸運であった。

ひめじクラフト・アートフェアの立ち上げと歩み



茶座第3回は、昨年の東日本大震災復興支援展「連」でご協力いただいた姫路クラフト・アートの乾善弘さんに、2000年からはじまって今年で12回目をむかえた「ひめじクラフト・アートフェア」の歩みについてお話しいただいた。長野・松本市で開催されているアートフェアに触発されたのが姫路での立ち上げの動機だという。書写でひらいた第1回は好天にめぐまれて勢いついたが、その後は悪天候に見舞われつづけたことや、行政の協力を求めない手づくりの運営ならではの苦労談、姫路菓子博のために1年ブランクがあったのが結果的によかったこと、イメージキャラクター「はしろう君」

のことなど。後継の代表である三輪周太郎さんにもお話に加わっていただき、聴衆との質疑もまじえて楽しい時間になった。

仙台市でのボランティア活動に参加して

姫路芳音 園田 真一



「東日本大震災に対して自分の力で何かできることがないか」という思いと、「一度自分の目で大震災の被災地を見ておかなければいけない」という思いから、遅ればせながら職場の休暇を利用して7月18～20日の3日間、宮城県仙台市での復興支援ボランティア活動に参加してきました。

宿泊は浄土真宗西本願寺仙台別院のボランティアセンターにお世話になりました。朝7時から読経の時間があり、気持ちを落ち着けて津波復興支援センターにむけて出発。そこでその日の作業内容を聞き現場へ向います。

1日目は元農地だった場所の地ならしでした。がれきを土ごと撤去し、地面が下がったため土をいれます。津波による冠水のため地盤がゆるみ重機が入れず、人力でしか作業できないとの事。作業中は近所のお寺でトイレを借りましたが、墓石が傷だらけでした。津波で流されたものを直したそうです。近所の民家も、一階はまだ窓ガラスが入っておらず、パネルで埋めてある家も多くありました。また周囲の水田はすべて除塩作業中で作付けされていません。1年以上たっても震災の傷跡はまだまだ直らないのだと改めて感じました。

2日目は荒浜地区という海岸地域での漁具などの片付け作業でした。津波の爪あとがはっきり残っており、辺りの風景に慄然とする思いで言葉を失いました。住宅の基礎部分だけがたくさん残っています。ひっくりかえったままの人家もありました。壊れた小学校の校舎・体育館、かたむいたままの電柱、積み上げられた廃車の山……。現在は危険地域に指定され帰ることも出来ないため、復旧も全く進んでいない状況ですが、住民の方たちは戻れるよう運動を重ねておられるそうです。

3日目は農業支援で、石ひろい、草取り、出荷時期を過ぎてしまった作物の片付けをしました。農作業に使う機械はほとんど流されて再開もままならぬ状態の中、専業農家の依頼者さんは倉庫を作り、トラクターを購入されました。農機具の値段を教えてもらいましたが大変な金額で、何につけ公的な支援は必ず充分な私たちが必要であると感じました。

実働3日間という大変短い期間でしたが、被災地の状況を目の当たりにできたことは大変大きな勉強となりました。そしていまでも引き続き全国からボランティアの方たちが入れ替わり被災地に入り支援を続けていることも知りました。こちらでは報道などの情報量が少ないのはしかたないのですが、みなさんぜひいつも被災地のことを心にとめておいていただきたいと思います。復興にはとても長い期間が必要です。そして日本の国のあり方が問われると思います。

そしてこの大震災は、もう一つ「原発」という問題を我々に投げかけました。首相官邸や電力会社の前では大規模なデモが繰り返されています。今夏の大飯原発の再稼働は不要であったという結果も出ました。生命を脅かす排出物が何百年、何千年の単位で残り続けるようなものの存在はエネルギー源の選択肢としてありえないと思います。帰りに福島市に立ち寄りましたが体感で震度2くらいの地震があり驚き不安になりました。地元の方によるとこれくらいの地震はよくあるとのこと。この地震列島に56機もの原子炉があることは、日本国民全体にとってとても危険であることは明白です。

東日本大震災を含めた様々な大災害からの復興と原子力発電所の行く末は、この先真に我々が住みやすい日本を作れるかどうかに関わってくると思います。

神戸新聞記者 との懇親会

8月3日(金)、「酒宇宙 會津若松雜華」にて懇親会を開催しました。
神戸新聞社より4名、姫路文連関係者14名の参加がありました。

神戸新聞社との交流会でパワーチャージ

陶芸家 西川 都子^{さとこ}

2011年9月に“ギャラリー・ルネッサンス・スクエア”で開催された「東日本大震災復興支援文化展 “連”」この展覧会に参加させていただいたことをきっかけに、私と姫路文連との交流が始まりました。

私は、県立姫路工業高等学校でデザイン・京都精華大学で立体造形（石彫）の勉強をした後、京都の染色作家とご縁があり、そのご兄弟の陶芸家のアトリエへ通い弟子をさせていただきました。張りつめた環境の中でもものづくりに対する姿勢や精神を教わり、今は地元姫路で、手びねりに文様を施したオリジナルのオブジェ作品を中心に制作しています。

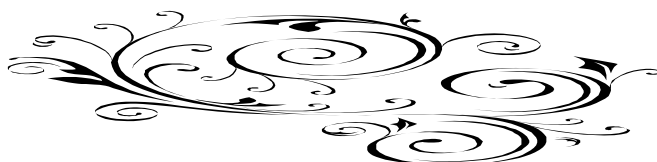
発表の場を求めていたその時、銀細作家の友人の紹介で“連”に参加させて頂けるチャンスが訪れました。被災地三輪田窯や震災時のパネル展示など現地とリンクした展覧会は、結末力とアイデアに満ち溢れた本当にすばらしい展だと感じました。

今年7月、飾磨区上野田にある“Feel the Breeze Gallery (フィールザブリーズギャラリー)”にて個展を開催した際には、神戸新聞に展覧会情報を掲載して頂き、その件で担当の方と何度かやり取りをしました。姫路文連の方にもこの展をご高覧頂いた折に「神戸新聞社との交流会」へのご招待をいただきました。

交流会には穏やかな詩人、パワフルな作家、郷土史の有識者、華やかな表現者・・・そして、このようなカラフルなアーティストを的確に文字に起こしてくださる記者が集い、個展の時に担当して下さった記者の方も参加されていて大変驚きました。姫路支社長が歩まれてきた世界各地のエピソードの数々には感動し、視野を広く持とうという気持ちになり、さらには勇気を与えていただきました。

様々なきっかけによってデフォルメしながら広がっていくという素晴らしい経験をさせていただいていることに感謝しています。

これからも、このつながりと経験をパワーに制作に励む所存です。



芸術文化施設見学ツアー

9月8日(土) 9日(日)

今年の文連文化施設見学ツアーは、山口県長門市「香月泰男美術館」「金子みすゞ記念館」「くじら学習館」「村田清風記念館」でした。

ワゴン車2台で9名を乗せて出発しました。片道約6時間かけての車での移動なので、松下塾や吉田松陰の墓地にも行くことができました。盛りだくさんの学習とおいしい料理で、充実した楽しい一泊二日の旅でした。



文連の芸術文化施設見学ツアーに参加して

姫路労音 安井 喜美子



金子みすゞについては、みすゞの生涯をテレビドラマで放映されたのを観たり、姫路文学館に於いて特別展<H24、4月20日から5月27日>を観て、金子みすゞにより関心をもっていました。今回参加して、あらためてみすゞの生涯に思いを馳せ、なにげないふとした事へのまなざしの詩にやさしさ、やすらぎを感じました。また、みすゞ通りの昔の家並みも散策でき、レトロな気分が良かったです。

香月泰男美術館は初めて耳にし、シベリアの収容所から帰国した画家の絵の展示、絵だけでなく、おもちゃコーナーがあり、身近な廃材、廃品を利用して作成したユニークな作品で眺めていても飽きない。ちょっと動き出しそう!!印象に残ったのは、シベリアシリーズその2『避難民』、ほとんど黒を基調としての情景に顔、手、ひとつひとつ異なった表情、しぐさ、でもそこから何かをみつめ何かを訴えかけてくるものがありました。逃げる事のできない迫ってくるようで心にずしーんと重い物を感じ、戦地での人間の生と死、戦争は絶対にすべきではないと深く考えさせられました。また戦地からの家族あての軍事郵便(スケッチ入り)が夫人宛には漢字、こども宛にはカタカナで・・・と家族への愛情も伝わってきました。以上2点について思いのまま書きました。

今回、文連の方と一緒に旅をして感動の2日間、特に記憶に残ることでしよう。



第35回 文団連全国交流集会 in 姫路のご案内

文化団体連絡会議（文団連）には詩人会議、日本のうたごえ、日本美術会、日本映画復興会議、日本民主主義文学会はじめ多くの全国組織や各地方の文団連が加盟しています。文団連では、定期的に全国交流集会を行っていますが、35回目となる今回、姫路で開催することとなりました。

是非、多くの方々のご参加を頂きたく、下記の通りご案内いたします。

10月20日（土）14：00～10月21日（日）正午
姫路市民会館／姫路プラザホテル

第1日 10月20日（土）交流集会・懇親会

- 14：00 開会 姫路市民会館 3F 第1会議室
- 14：15 記念公演「地域に根づく文化」
神戸新聞文化財団企画事業部長 藤本賢市氏
- 15：15 質疑
- 16：00 団体発言、討論①
テーマ
「地域に根づく文化」「3・11から20ヵ月、生きる権利と文化」
特別報告 姫路文連 小坂学
- 17：45 終了
- 19：00 懇親会 姫路プラザホテル 2F
↓
うたごえ 鯛網引き歌 労音民族音楽研究会
21：00 民族歌舞団花こま 他

第2日 10月21日（土）交流集会

- 9：00 2日目開会 姫路市民会館 4F 第3会議室
団体発言、討論②
テーマ
「地域に根づく文化」「3・11から20ヵ月、生きる権利と文化」
- 11：30 まとめ
- 12：00 閉会

参加費 交流集会：1,000円
懇親会：2,000円＋α（飲み物代）

